自分の研究や普段の生活の中で、この講義で説明した考え方（WBS、FTAなど）がどのように応用できるか、自分の考えを簡単に記述してください。

トップダウンアプローチにおいては，まず大きな目的を設定し，目的に対応した手段を設定していくことで，ツリー状の図を作成することができ，現在の問題点や解決方法が明瞭になる点が研究生活においてとても実用性があると感じました．

WBSは全体を細かい作業に分割した構造図であり，構成要素をツリー計上で整理したものです．タスクを網羅的に細分化，明確化することで効率的にプロジェクトを進めることができ．私の場合では，以下のようなWBSを作成できます．

[就活する]

企業を探す

就活サイトに登録する

マイナビに登録する

リクナビに登録する

インターンに応募する

資格を取得する

TOEICのスコアを上げる

参考書を購入する

勉強時間を確保する

英語の勉強をする

試験に申し込む

自己分析する

説明会に参加する

日程を調査する

このように網羅的に細分化されたタスクをガントチャートでスケジュール管理することによってより効率的に就活を進めることができると考えられます．また，スケジュール管理ではマイルストーンや拘束条件が重要となり，並行して行えないタスクに注意して作成する必要があるというのは研究生活の中で身をもって体験したので，特に注意しようと考えています．

また，FTAは故障や失敗のリスクを考慮してスケジュールを組む手法であり，失敗の起こり得る可能性や原因，それが及ぼす影響について理解しておくことが重要です．私の場合は研究活動の中でプログラムを作成するタスクが多々ありますが，全体像を把握して，進捗報告までにタスクが完了しない可能性を考慮して前もって準備するなどのリスクマネジメントが重要となると考えられます．